

ムスリムビジネス始動

朝日新聞 2014.10.30(木)

戒律守られた製品 ■ 観光客の誘致

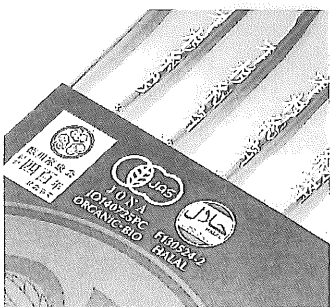
世界で約16億人とされるイスラム教徒（ムスリム）向けのビジネスが、県内で少しずつ動き出している。イスラム教の戒律が守られている「ハラール」認証を受けようとする企業が出たり、ムスリムを観光に呼び込む検討が始まったりしている。背景には成長するムスリムの市場への期待感がある。

イスラム教徒は戒律で豚肉やアルコールの飲食だけでなく、豚肉やアルコール成分が入った調味料を使ったり料理も避けねばならない。豚以外の食肉も処理方法が定められている。ハラールとはアラビア語で「許された」という意味を持ち、食に限らず宗教的に許されたものを指す。

ティーバッグ加工を扱う「キムラ加工」（島田市）は市内の新工場で、ムスリムが楽しめる緑茶製品作りをめざし、約1年半前からハラール認証に向けた準備を進め、今月認証された。

地元のお茶店や茶農家と連携し、「ホテルなど訪日観光客向けのハラール認証のお茶製品作りにも取り組みたい」と話しており、木村良太取締役は「将来的には、中東の富裕層向けに地元産のお茶を提供したい」と話す。

静岡茶葉を粉末状にした「駿府茶葉」は、昨年5月、緑茶で日本初のハラール認証を受けた。製造しているのは精密加工部品



パッケージにハラール認証のマークが付いている緑茶製品「駿府茶葉」オーシャン提供

どうすれば心をつかめますか

静岡ムスリム協会副代表

アサディ みわさん (39)

を扱う「中央精工」の関連会社「オーシャン」（静岡

信仰や文化まず知って

どうすればムスリムの心をつかめるのだろうか。静岡ムスリム協会のアサディみわ副代表(39)に聞いた。

——観光でムスリムたちに静岡へ来てもらおうという動きが始まっています

ハラール食や観光など、ここ1、2年でビジネスでの関心度が高まりました。全国の観光地でもムスリム対応に力を入れる動きがあります。静岡は後れを取っていますが、観光に必要な要素はそろっています。

——例えば？

海の幸、お茶、季節の果物

市清水区)だ。執行役員の浅井敏一さんは「売り込みをしなくても、これまで数十件の問い合わせが寄せられた」と話す。現在もドバイで商談が進んでいる。

米調査機関「ピュー・リサーチ・センター」によると、世界のムスリム人口は10年に約16億人だったが、30年には約22億人(世界人口の26.3%)に達すると予測している。人口増加に伴い、ハラール市場も拡大

観光客の受け入れも始まっている。昨年8月に礼拝施設を設けた御殿場市の「御殿場プレミアム・アウトレット」では多い日で数十人の利用があるという。県も静岡空港に、イスラム教徒用の礼拝室を設け「ハ

ラー」食事を提供する飲食店を用意することを検討している。ただ、県内の宿泊施設について、県観光振興課は「受け入れ態勢があるのか、その予定があるのか実情把握から始めている。段階だ」と話している。

——観光でムスリムたちに静岡へ来てもらおうという動きが始まっています

ハラール食や観光など、ここ1、2年でビジネスでの関心度が高まりました。全国の観光地でもムスリム対応に力を入れる動きがあります。静岡は後れを取っていますが、観光に必要な要素はそろっています。

——例えば？

海の幸、お茶、季節の果物

市のお茶の郷」でお茶文化

——独自性はどこにありますか

モスクには礼拝堂など必須な要素はありますが、建築様式には自由度があります。畳の部屋を設けたり、洗浄便座や太陽光パネルなどテクノロジーを採り入れたりして日本を体験できる場を作るのはどうでしょうか。

インタビュー



アサディみわ 1975年、東京都生まれ。中学、高校時代を静岡市で過ごす。98年、米国へ留学中にエジプト系米国人の生き方に感銘を受けてイスラム教に入信する。4児の母。13年、イスラム関連のコンサルタント会社「アイ・ソリューションズ」を起業した。